

『撰真実論』 および 『撰真実論細疏』 における プドガラ説批判

鄭 祥 教

1. 問題設定

『撰真実論』 *Tattvasamgraha* (TS) と 『撰真実論細疏』 *Tattvasamgrahapañjikā* (TSP) におけるプドガラ説批判の構造と内容は、ヴァスバンドゥ (Vasubandhu, 400–480 頃) の『俱舍論』 *Abhidharmakośabhāṣya* 「破我品」の影響をうけているというのは妥当であると思われる。ところが、プドガラの存在様態に関する規定が、それを伝える時代と文献によって異なることを勘案すると、TS・TSP (以下、両論) が「破我品」の「焼き直し」であるという内藤 [1984] における分析には、再検証の余地がある。以下、両論と「破我品」において想定されるプドガラの存在様態を中心として、両論の性格を考察したい。

2. 諸文献におけるプドガラの存在様態

「破我品」が批判の対象とするプドガラ説は、「プドガラは実体として (*dravyatas*) 存在するのでも、仮説として (*prajñaptitas*) 存在するのでもなく、内なる、執受される現在の諸蘊にもとづいて (*upādāya*) 仮説される」というものである¹⁾。すなわち、「仮説」と「実体」として存在することの両方が否定された後に、再び「仮説される」という矛盾しているかのような主張が見られるのである²⁾。一方また、「破我品」に先立つ『論事』 *Kathāvatthu* (前 3c. 頃) では、“*puggalo upalabbhati saccikatṭhaparamatṭhena*” と、また『識身足論』 *Vijñānakāya* (前 2c.～後 1c. 頃) では、「諦義勝義。補特伽羅。可得可證。現有等有。是故定有補特伽羅」というように³⁾、プドガラは「実体」として想定されている⁴⁾。

さて、TS・TSP におけるプドガラ説批判は、内藤 [1984] で指摘されるように「破我品」が提示した認識や業因果の問題には触れず、プドガラ説批判が説かれる第 336 偈から第 349 偈のうち、第 336 偈から第 347 偈までの 3 分の 2 以上がプドガラの存在様態についての議論である。すなわち、プドガラが実在物 (*vastu*, *ḍṅgos*

『撰真实論』および『撰真实論細疏』におけるブドガラ説批判（鄭） (125)

po)であるかぎり、「同一・別異，常住・無常」などと「表現されえない」というブドガラ説に対する批判的な論議に集中しているのである⁵⁾。このような批判の仕方は，カマラシーラ（Kamalaśīla, 740–795 頃）の他の著作である『中観光明論』*Madhyamakāloka* (Māl)⁶⁾ や，後期中観派のプラジュニャーカラマティ（Prajñākaramati, 11c. 頃）の『入菩薩行論細疏』*Bodhicaryāvatārapañjikā* におけるブドガラ説批判においても，ほぼ同様のあり方で見られるのである⁷⁾。

3. TS・TSP と『中論』との関係

では，後期中観派のブドガラ説批判において，「非同一・非別異」をめぐる議論がほぼ共通して用いられた背景に何を見ることができるであろうか。清島 [1989] p. 57 では，マンダナミシュラ（Maṇḍanamiśra, 7–8c. 頃）の『ブラフマシッディ』*Brahmasiddhi* における，いわゆる「定義不能」*anirvacanīya*（語られえない [もの／こと]）の発想があり，仏教内部におけるこのような考え方は『中論』*Mūlamadhyamakārikā* 第2章「観去来品」等に見られ，TS のブドガラ説批判にも使われたと考察されている。ところが，管見によるかぎり，ナーガールジュナが『中論』において頻繁に用いる「非同一・非別異」の論法を中観派におけるブドガラ説批判において最初に用いたのは，チャンドラキールティ作の『入中論』*Madhyamakāvatārabhāṣya* 第6章第147偈であると思われる⁸⁾。すなわち，両論のブドガラ説批判の論理は，中観派の論書である『中論』—『入中論』を経て，『入菩薩行論細疏』などに至るまで繋がる思想的連関があると認められるべきではないであろうか。

4. 結論

「破我品」においても中観論書においても「ブドガラと五蘊の同一・別異」の問題が扱われているが，「破我品」は「仮設」と「実体」両者として存在するブドガラの批判を行う。これに対して，『入中論』・『入菩薩行論細疏』および TS・TSP は，「実在物」であるブドガラの「同一とも別異とも語りえない」性質を集中的に問題にする。すなわち，そのような性質と「実在物」であることとの間の論理的な矛盾を指摘することによって，ブドガラの実在性を批判する。それゆえ，それぞれの論書が規定するブドガラの存在様態の相違を無視することはできず，TS・TSP が「破我品」の焼き直しであるという解釈についても，中観思想史におけるブドガラ説批判の展開という視点から改めて見直す必要があると考えられるのである。

(126) 『撰真実論』 および 『撰真実論細疏』 におけるプドガラ説批判 (鄭)

- 1) AKBh_L, p.40, 1-3.
- 2) 武田 [1998], pp. 11-15 では、矛盾しているかのように思われるプドガラ説を関連文献から分析するが、解決し難いと述べている。
- 3) Cf. 坂本 [1981], pp. 301-303.
- 4) プドガラ説の変化については Priestley [1999], p. 87.
- 5) 「論証式——実在物 (vastu, dngos po) と同一あるいは別異なるものと表現されえないもの、それは実在物ではない。例えば、虚空の蓮華のように。プドガラは〔五蘊と同一あるいは別異なるものとは〕表現されえない。〔従って、プドガラは実在物ではない。〕」 TSP_B, p. 160, 17-19.
- 6) Cf. 森山 [1998], p. 9, pp. 14-15. 同論考では、Māl と TSP の第 347 偈における犢子部説批判に関する比較考察がなされている。
「実在する物が、どのようにも表現されえないということはあるからである。というのも、常住と無常という、相互に排除して存在する特徴 (*parasparaparihāraṣṭhi-tīlakṣaṇa) をもつものは、一方の肯定および否定が、他方の否定および肯定と不可離の関係にあるから、一方 (常住 or 無常) の否定それ自体が、他の実在物の肯定であるから。ゆえに、どうして実在物が表現されえないということがあろうか。」 Māl, 222 b7-223a1.
- 7) 「実在物は、同一と別異なるあり方を超えないからである。相互に排除しあう両者には、一方の否定が他方の肯定であるという必然的関係があるのであるから。」 BCAP, p. 474, 9-10.
- 8) 「なぜなら、心は色〔法〕と〔同一かあるいは別異かと〕語られえないとは理解されていないのであるから、実在物としてあるもの (dngos yod) が、〔同一かあるいは別異かと〕語られえないとは理解されない。」 MABh 6, k. 147ab.

〈略号及び参考文献〉

- AKBh_L: *Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu, Chapter IX*. Ed. Jong Cheol Lee. Tokyo: The Sankibo Press, 2005.
- BCAP: *Bodhicaryāvatārapañjikā*. Ed. La Vallée Poussin. Bibliotheca Indica. Calcutta: The Asiatic Society of Bengal, 1901.
- MABh: *Madhyamakāvatārabhāṣya*. Ed. La Vallée Poussin. Bibliotheca Buddhica IX. St. Pétersbourg, 1907-1912. Reprint, Osnabrück: Biblio Verlag, 1970.
- Māl: *Dbu ma snang ba ces bya ba Madhyamakāloka-nāma*. Peking ed., no. 5278.
- TSP_B: *Tattvasaṃgraha of Ācārya Śāntarakṣita, with the Commentary 'Pañjikā' of Shri Kamalaśīla*. 2 vols. Ed. S. Dwarikadas Shastri. Bauddha Bharati Series 1. Varanasi: Bauddha Bharati, 1968.
- Priestley, Leonard C. D. C. [1999]: *Pudgalavāda Buddhism: The Reality of the Indeterminate Self*. South Asian Studies Papers, no. 12. Monograph no. 1. Toronto: University of Toronto, Centre for South Asian Studies.

『撰真実論』および『撰真実論細疏』におけるブドガラ説批判（鄭） (127)

清島秀樹 [1989]: 「不二一元論と仏教に見られる「定義不能」という概念」『仏教学』27, pp. 49–67.

坂本幸男 [1981]: 『阿毘達磨の研究』大東出版社.

武田宏道 [1998]: 「犢子部のブドガラ説——『俱舍論』破我品の所説を中心にして——」『龍谷大学論集』451, pp. 1–36.

内藤昭文 [1984]: 「TSP におけるアートマン説批判（II）——ブドガラ説をめぐって（1）——」『印度学仏教学研究』33-1, pp. 140–141.

森山清徹 [1998]: 「カマラシーラの常往論批判とダルマキールティの刹那滅論——サーンキヤの顕現説，説一切有部の三無為説，犢子部のブドガラ説の吟味」『文学部論集』（佛教大学文学部）82, pp. 1–19.

〈キーワード〉 *Tattvasamgraha*, *Tattvasamgrahapañjikā*, 「破我品」, ブドガラ
(東京大学大学院)

新刊紹介

能仁 正顕 編

『大乘莊嚴經論』第 XVII 章の和訳と注解

供養・師事・無量とくに悲無量

B5 判・391 頁・本体価格 5,200 円
自照社出版・2013 年 8 月